

各位

上場会社名	日本開閉器工業株式会社
代表者	代表取締役社長 大橋 智成
(コード番号)	6943)
問合せ先責任者	取締役 市川 忠夫
(TEL)	044-813-8026)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月26日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,360	303	367	215	26.08
今回発表予想(B)	3,844	△40	5	△50	△6.09
増減額(B-A)	△515	△343	△361	△265	――
増減率(%)	△11.8	△113.3	△98.6	△123.3	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	4,550	321	399	157	19.10

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,900	620	750	440	53.38
今回発表予想(B)	7,696	80	125	47	5.70
増減額(B-A)	△1,204	△540	△625	△393	――
増減率(%)	△13.5	△87.1	△83.3	△89.3	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	8,802	482	416	141	17.22

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,600	264	313	176	21.35
今回発表予想(B)	3,235	△3	10	△77	△9.36
増減額(B-A)	△364	△267	△302	△253	――
増減率(%)	△10.1	△101.4	△96.6	△143.8	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	3,799	407	449	218	26.49

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,350	540	640	360	43.67
今回発表予想(B)	6,503	71	105	28	3.40
増減額(B-A)	△847	△469	△535	△332	――
増減率(%)	△11.5	△86.9	△83.6	△92.2	――
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	7,339	426	507	205	24.94

### 修正の理由

世界的な急速な景気悪化の影響により、設備投資需要が減退したことを受け、産業用スイッチ(操作用スイッチ)市場も低迷が続き、出荷総額で前期比9.5%減となりました。

前期末時点では、前期並の市場動向を前提に当期の計画を策定し、新製品の投入など営業努力に努めましたものの、上述の急速な市場悪化の影響により、当初予想比大幅に受注が減少し、当第2四半期累計期間におきましては、連結売上高38億44百万円(前回予想比11.8%減)、個別売上高32億35百万円(前回予想比10.1%減)となりました。

また、業績の悪化に対応すべく、第2四半期よりコスト削減に努めてまいりましたが、売上の減少割合が大きかったことに加え、かねてより固定費が高かったことにより、連結につきましては営業損失40百万円(前回予想比113.3%減)、経常利益5百万円(前回予想比98.6%

減)、四半期純損失50百万円(前回予想比123.3%減)となりました。

個別につきましても、営業損失3百万円(前回予想比101.4%減)、経常利益10百万円(前回予想比96.6%減)となり、また、第2四半期末にかけての株式市況の急速な悪化の影響を受け、投資有価証券評価損を1億11百万円計上したこともあり、四半期純損失は77百万円(前回予想比143.8%減)となりました。

これらの要因により、第2四半期においては、前回発表の業績予想を確保することが困難であると判断し、本連結業績予想及び個別業績予想の修正を行うものであります。

通期につきましては、市場動向は第2四半期と同様厳しいものとなることを想定しており、受注の回復が見込めないことから、売上高、利益とも前回発表予想比で大幅な未達となる見通しです。しかしながら、上記第2四半期からの固定費の圧縮施策が効果をあらわし、利益の減少を抑えられる見通しであります。

以上により、通期においても、本連結業績予想及び個別業績予想の修正を行うものであります。

(注)上記の業績等は、現時点における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、今後の様々な要因により、業績予想とは異なる結果となる可能性があります。

以 上